

平成 31 年度事業報告

(平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日)

令和元年度は、引き続き「公益財団法人福島県国際交流協会第 5 期運営基本計画（平成 28 年度～平成 32 年度）」の各基本目標に基づく事業計画に沿って、各事業に取り組んでいる。

【基本方針及び目標】

基本方針 1 多文化共生による地域づくりを推進します。

互いの文化の違い等を理解し対等な関係で尊重し合い、共に生きる地域社会の実現を目指します。
外国出身県民を含めた県民誰もが住みやすいと感じ、その能力を生かして地域社会の一員として活躍できる環境を整備します。

【数値目標】外国出身のサポーター※の延べ活動人数

(単位：人)

項 目	平成 31 年度 目標	平成 31 年度 実績 (達成率)
延べ活動人数	105	49 (46.7%)

数値目標は、当協会第 5 期運営基本計画（平成 28 年度～平成 32 年度）に基づく。

※「サポーター」とは、人材バンク制度及びボランティア登録制度の登録者

【事業実績】

1 異文化理解および国際交流の機会を提供する事業

(1) 国際理解出張講座（多文化共生編）

県内の公民館主催事業や各種団体等の会合に当協会職員等が講師として出向き、県民（児童生徒等を除く）を対象として、文化の多様性、外国人の人権、異文化理解や貧困問題などをテーマとした講座を実施した。（児童生徒等を対象とする講座については、後述の「国際理解出張講座（グローバル人材編）」に記載。）

○ 参加者：80 人（前年度実績 167 人）

○ 講座名と実施回数

	講 座 名	実施回数
A	Diversity in Canada～多文化の国 カナダ～	1
B	海外へ留学しましょう	
C	地球の食卓	1
D	世界がもし 100 人の村だったら	

E	食卓からのぞいてみよう イスラム文化	
F	これってアリ？	1
G	貿易ゲーム	
H	新しい惑星の旅	
I	シータちゃんの日	
J	魚獲りゲーム	
K	その他（依頼団体の講座のねらいに応じて）	1

合計 4 回（前年度実績 6 回）

(2) グローバルコミュニティカフェ

外国語による会話を通じて、外国の言語や社会、文化等に関する理解を深めるため、講師として外国出身の多文化共生・国際交流人材バンク登録者等を活用し、気軽に外国語に触れる機会を当協会にて定期的に提供した。

なお、8月には会津喜多方国際交流協会、12月には白河市国際交流協会、2月には南相馬市国際交流協会と協働し、それぞれの市で出張型として実施した。

ア グローバルコミュニケーションコース

外国出身の講師を迎え、講師の国で話されている言葉に触れながら、その国の文化を理解するコースを開催した。

- 実施回数：3回（8月～2月）（前年度実績 3回）
- 参加者：50人（うち外国出身者8人）（前年度実績 53人（4人））
- 講師の出身国：アメリカ、オランダ、フィリピン

イ 英語コミュニケーションコース

あらかじめ設定した様々なテーマについて、英語でフリーディスカッションを行いながら、ゲストスピーカーの国の文化を理解するコースを開催した。

- 実施回数：15回（4月～2月）（前年度実績 12回）
- 参加者：のべ175人（うち外国出身者5人）（前年度実績 128人（5人））

ウ GC Café for Kids

福島県立図書館と協働し、外国の絵本を読んだり歌遊びをしたりして子どもたちの外国文化への理解を深めた。

- 実施回数：2回
- 講師の出身国：フィリピン、カナダ、ブラジル
- 参加者：22人（うち外国出身者0人）

(3) 国際交流広報紙「ジャイロ」の発行

県民の国際交流への興味関心をより一層高めるため、県内の国際交流等に関する様々な取組や情報をタイムリーなテーマで特集した国際交流広報紙「ジャイロ」を発行し、公共施設等を通じて県民に広く配付した。

- 発行月：8月、2月
- 発行部数：各 5,000 部
- 仕様：A4 判 8 ページ、両面フルカラー
- テーマ国：イギリス（8月号）、オリンピック・パラリンピック（2月号）
- 内容：Interview with Foreigners、世界を歩こう！、海外グルメ事情、福島県国際交流協会の事業案内、ぶらっと Fukushima など
- 配付先：賛助会員、県内公共施設、市町村国際交流協会、エスニック料理店他

2 多言語による対応を推進する事業

(1) 多言語による相談対応事業 《県委託事業》

外国人住民からの行政サービス等生活に関連する様々な問合せに多言語で対応した。

ア 外国人住民のための相談窓口

多言語相談員 1 人及び今年度より新たにベトナム語を入れた通訳員 4 人を配置し、中国語と英語は随時、韓国語、タガログ語、ポルトガル語、ベトナム語は毎週木曜日 10:00～14:00（第 4・第 5 木曜日は予約制）に、行政サービスや在留資格など外国人住民に関わる各種問合せに対応した。また、2 月からは統括員を配置し、関係機関を訪問し窓口広報等を行った。

- 相談件数：544 件（前年度実績 581 件）
- トリオフォン(三者通話電話)利用件数：46 件（前年度実績 47 件）
- 相談言語別 (件)

言語	中国語	日本語	英語	タガログ語	ポルトガル語	韓国語	ベトナム語	合計
件数 (前年度実績)	312 (320)	180 (201)	27 (42)	16 (16)	3 (0)	2 (2)	4 (0)	544 (581)

イ 相談窓口ニューズレターの発行

在留外国人統計や相談窓口紹介等を掲載したニューズレターを作成し、県内の行政機関等に配付することにより、当協会の相談窓口の広報を図った。

- 発行月：6月、2月
- 発行部数：各 300 部（前年度実績 各 100 部）

- 仕 様：A4 判 2 ページ、両面白黒
- 内 容：平成 30 年度相談窓口状況報告、在留外国人統計、トリオフォンを使った無料通訳サービス及び外国出身者のための相談窓口の紹介など
- 配 付 先：県内の市町村住民関係窓口及び国際交流担当部署、保健福祉事務所、児童相談所など

ウ 相談窓口広報用クリアファイル等の作成

相談窓口の広報を図るためのクリアファイル等を作成し、県内の市町村住民関係窓口及び国際交流担当部署、社会福祉協議会、日本語教室などに配付した。

(ア) クリアファイル

- 発行部数：シングル 2,500 部、ダブル 6,000 部

(イ) カード

- 発行部数：5,000 部

(2) 多言語による情報提供事業《県委託事業》

外国人住民の本県での暮らしをサポートするため、当協会ホームページやフェイスブック、ツイッターの 3 つの媒体を活用し、中国語、英語、タガログ語、韓国語、ポルトガル語、ベトナム語で地域のイベント情報や身近な生活情報を提供した。

- 情報件数：122 件(前年度実績 204 件)
- 多言語発信回数：568 回(前年度実績 620 回)
- 言語別内訳

(件)

言語名	英語	中国語	タガログ語	韓国語	ポルトガル語	ベトナム語	合計
回数 (前年度実績)	133 (156)	102 (128)	84 (110)	85 (115)	83 (111)	81 (0)	568 (620)

(3) 在住外国人アンケート《県受託事業》

防災、医療、保険、福祉、教育、労働などさまざまな分野における外国籍住民の実態や意見を把握し、今後の外国籍住民に対する施策検討の基礎資料とするため、アンケートを実施した。なお、その結果を福島県ホームページに掲載した。

- 調査対象
20 歳以上の福島県内外国籍住民
- 調査方法
無作為抽出した調査対象へ郵送で調査票を送付し、アンケート調査を行った。
- 調査機関

令和元年9月～11月

- アンケート調査票言語
日本語(ルビ付き)、英語、中国語、ベトナム語
- 調査票配布数
2,800件
- 調査票回収数
571件(回収率 20.4%)

3 日本語によるコミュニケーションを支援する事業

(1) 「やさしい日本語」に関する啓発

外国人住民に対する日本語による情報提供や日本語によるコミュニケーションを円滑に推進するため、様々な団体が行う事業を活用して当協会職員による「やさしい日本語」の研修会を実施した。

- 実施回数：9回(前年度実績 6回)
- 講師：幕田順子(当協会)
- 参加者：403人(前年度実績 338人)

(2) 日本語教室支援事業

県内の日本語教室に対し、県内外で開催される研修会等の情報をメールで提供した。また、インターカルト日本語教師養成学校と共催で、日本語ボランティア研修会を開催した。

- 日時：12月7日(土)9:40～15:30
- 場所：マイタウン白河
- 参加者：31人(前年度実績 22人)
- 内容：外国人学習者がどんどん日本語を話したくなる工夫、共生社会における日本語教室の役割と可能性
- 講師：齋藤美幸氏、加藤早苗氏氏(ともにインターカルト日本語教師養成学校)

4 多文化共生による地域づくりを担う人材を育成・活用する事業

(1) 多文化共生・国際交流人材バンク制度

多文化共生による地域づくり及び国際交流活動を推進するため、「多文化共生・国際交流人材バンク制度」に登録してもらうとともに、多様な主体からの紹介の依頼に応じ、登録者に活動の機会を提供した。

ア 登録者

○ 人数：191人（うち外国出身者数 67人）（前年度実績 161人（59人））

○ 出身国別内訳 (人)

出身国	日本	中国	フィリピン	タイ	韓国・朝鮮	台湾	その他※	計
人数 (前年度実績)	124 (102)	27 (25)	6 (6)	8 (5)	4 (3)	3 (3)	19 (17)	191 (161)

※ オーストラリア(2人)、インドネシア(2人)、モンゴル(2人)、ネパール(2人)、ブラジル、ルワンダ、ベトナム、スリランカ、エジプト、パキスタン、パラグアイ(アルゼンチン)、ニュージーランド、バルバドス、スイス、アメリカ 各1人

イ コーディネート総数

63件、活動者数 101人（うち外国出身者 49人）（前年度実績 44件、65人（31人））

(ア) 公的団体等からの依頼

- 件数：23件（前年度実績 18件）
- 活動人数：48人（うち外国出身者 30人）（前年度実績 31人（15人））

(イ) 当協会主催事業への協力

- 件数：12件（前年度実績 9件）
- 活動人数：20人（うち外国出身者 16人）（前年度実績 16人（16人））

(ウ) 外国の子どもの学校生活への適応支援

外国の子どもが学校生活に適応できるようにするために、初期の日本語指導及びができるサポーター及び三者面談等での通訳ができるサポーターを紹介した。

a 日本語指導

- 件数：28件（前年度実績 18件）
- 活動人数：33人（うち外国出身者 3人）（前年度実績 19人（1人））

b 通訳

- 件数：0件（前年度実績 0件）
- 活動人数：0人（うち外国出身者 0人）（前年度実績 0人（0人））

ウ 語学人材スキルアップ研修会

多文化共生・国際交流人材バンク制度の「語学人材」登録者や登録に関心のある方を対象に、モチベーションの維持と資質向上のため、午前の部（10：00～12：00）は初心者向けの入門編、午後の部（13：30～15：30）は中級者向けの実践編（英語のみ）として研修会を開催した。

- 開催日：11月30日（土）10：00～15：30
- 場所：当協会
- 講師：朝倉久美子氏（おもてなし福島通訳ガイドの会代表）

- 参加者：入門編 10 人〈うち外国出身者 1 人〉、実践編 11 人〈うち外国出身者 1 人〉
 (前年度実績 午前の部 6 人、午後の部 24 人) (前年度は 2 会場で実施したが、今年度は台風 19 号の影響により 1 会場のみの実施)

エ 外国の子ども支援人材養成講座

市町村教育委員会等と協働して、日本語がわからない外国の子どもが学校生活に適応できるよう日本語又は母語による支援を行う多文化共生・国際交流人材バンク制度の「外国の子ども支援人材」の養成講座を行った。

- 実施回数：4 回(前年度実績 5 回)
- 講師：日下部喜美子 (当協会)
- 参加者：のべ 47 人 〈うち外国出身者 0 人〉 (前年度実績 のべ 52 人 〈3 人〉)
- 主な内容：「帰国・外国籍児童生等の早期適応のためのサポーター派遣等支援事業」の紹介及びサポーターの役割と指導上の留意点、教材等紹介等

(2) 多文化共生・国際交流ボランティア登録制度 (ホストファミリー・語学)

県民のボランティア活動への参加により、外国人住民が暮らしやすい環境づくりと国際交流活動を促進するため、登録者を広く募集し、多様な主体からの依頼に応じる体制を整備した。

ア 登録者

- 人数：123 人 〈うち外国出身者数 33 人〉 (前年度実績 118 人 〈34 人〉)

- 出身国別内訳 (人)

出身国	日本	中国	韓国・朝鮮	フィリピン	ブラジル	その他※	計
人数 (前年度実績)	90 (84)	17 (17)	3 (3)	2 (2)	1 (2)	10 (10)	123 (118)

※ オーストラリア、カンボジア、メキシコ、ベトナム、タイ、スリランカ、エジプト、ネパール、パキスタン、台湾 各 1 人

イ コーディネート総数

実績 1 件 2 人 (前年度実績 2 件 11 人)

5 外国出身の子どもの学校生活への早期適応を支援する事業

(1) 外国出身の子どもの支援と関係機関との連携強化

ア ふくしま外国の子どもサポートセンターの運営

平成 26 年度に設置した「ふくしま外国の子どもサポートセンター」を引き続き運営し、外国出身の子どもを支援するための相談対応、情報提供、日本語テキスト等の教材の貸出し等を行った。

- 相談件数：23 件（前年度実績 18 件）

イ ふくしま外国の子ども支援団体連絡会の運営

平成 26 年度に設置した同連絡会の事務局として、支援に情報提供を行った。

- 情報提供回数：2 回（前年度実績 12 回）

ウ 外国籍児童生徒等関係者会議

外国籍児童生徒等の支援に係る関係者が一同に会し、福島県教育委員会からの報告や事例報告、講演会、及び情報・意見交換を行った。

- 日 時：7 月 31 日（水）13：00～16：00
- 場 所：当協会
- 参加者：市町村教育委員会、外国の子ども人材登録者など 27 人（前年度実績 26 人）
- 内 容：講演「外国人児童生徒の生活言語から学習言語～支援における『特別』について考える」
講師：中川祐治氏（福島大学人間発達文化学類准教授）

(2) 帰国・外国籍児童生徒等の早期適応のためのサポーター派遣等支援事業《再掲》

日本語がわからない外国の子どもの学校生活への適応に関わる日本語指導などのサポーター活動について、サポーターの派遣又は紹介、児童生徒等の支援に関する相談対応、成果の検証等を行う「帰国・外国籍児童生徒等の早期適応のためのサポーター派遣等支援事業」を実施した。

- 紹介件数：26 件（前年度実績 18 件）
- 派遣件数：2 件（前年度実績 0 件）

6 外国出身県民の災害対応を支援する事業

(1) 災害時外国出身県民等支援ボランティア登録制度

被災地等において、外国人住民等に対し、通訳・翻訳による情報収集、提供等を行う災害時外国出身県民等支援ボランティアの登録者を広く募集するとともに、研修会を実施した。

ア 登録者

○ 人数：91人（うち外国出身者数 31人）（前年度実績 85人（31人））

○ 出身国内訳 (人)

出身国	日本	中国	フィリピン	ブラジル	韓国・朝鮮	その他※	計
人数 (前年度 実績)	64 (54)	13 (13)	2 (1)	1 (1)	3 (1)	8 (12)	91 (85)

※ オーストラリア、メキシコ、ベトナム、タイ、スリランカ、ネパール、パキスタン、台湾 各1人

イ 災害時外国出身県民等支援ボランティア研修会

災害時外国出身県民等支援ボランティア登録者等を対象に、研修会を実施した。

○ 日 時：12月1日（日）13：30～15：30

○ 場 所：いわき市生涯学習プラザ 大会議室 2

○ 参加者数：27人（うち外国出身者数 10人）（前年度実績 15人（8人））

○ 内 容：語学ボランティアの役割、「避難所ワークショップ」の体験など

○ 講 師：須藤伸子氏（(公財)仙台観光国際協会国際化事業部国際課推進課長）

(2) 外国人のための防災講座

外国出身コミュニティと協力して防火講座等を県内3か所で実施した。

7 外国出身者コミュニティの活動を支援する事業

(1) 外国出身者コミュニティ活動支援事業

県内に潜在しているコミュニティの発掘を継続して行った。また、既存の外国出身者コミュニティに対しては、そのコミュニティが主催事業等を行う際の事業企画や関係機関との橋渡しなど事業実施に向けたサポートを行った。

また、コミュニティ等と協力して「外国人のための防火講座」として、県内3か所で実施した。《再掲》

【基本方針及び目標】

基本方針 2 多様な主体とともに国際交流・国際協力活動を推進します。

県、市町村、公益法人、NPO等様々な主体と密に情報共有を行い、ネットワークを構築します。さらに、各主体と連携・協働して、様々な国際交流・国際協力活動を効果的に行います。

【数値目標】 多様な主体からの国際交流・国際協力活動に関わる相談件数

(単位：件)

項目	平成 31 年度 目標	平成 31 年度 実績 (達成率)
相談件数	275	116 (42.2%)

※ 【数値目標】は、当協会第 5 期運営基本計画（平成 28 年度～平成 32 年度）に基づく。

【事業実績】

1 多様な主体が行う国際交流・国際協力活動を支援する事業

(1) 国際交流・国際協力活動への助成事業

福島県内に所在する非営利の民間団体が行う本県の国際交流・協力活動の進展に寄与する活動、国際交流活動を通じた本県の復興活動又は本県の復旧・復興の現状を外国語で国内外に発信する情報発信活動に関する助成事業を行った。

- 募集期間：4月25日～8月31日
- 応募件数：4件（前年度実績 3件）
- 助成件数：1件 10万円（前年度実績 1件）

団体名	活動名	交付額 (万円)
福島中国伝統文化愛好会	中国洛陽太原小中学生訪福団招致事業	10

(2) 国際交流・国際協力活動に関する相談対応事業

多様な主体が行う国際交流・国際協力活動に関する相談に対応し、人の紹介、ノウハウの提供等を行った。

- 相談件数：116件（前年度実績 184件）

(3) 国際交流・国際協力活動に関する情報提供等支援事業

多様な主体が行う国際交流・国際協力活動に関する情報を収集し、SNSを通じて広く県

民に対し発信した。県民への情報提供を行った。

	登録者数	発信回数
メールマガジン (前年度実績)	267 人 (262 人)	7 回 (15 回)
フェイスブック (前年度実績)	(フォロワー数) 1,055 人 (865 人)	121 件 (261 件)
ツイッター (前年度実績)	(フォロワー数) 154 人 (117 人)	214 件 (261 件)

(4) 国際交流・協力団体ダイレクトリーの発行

県内の国際交流・協力団体の活動状況を調査し、国際交流・協力活動に参加したい県民に対し、団体の連絡先、目的、活動内容等の基本情報をホームページに掲載した。

- 照会時期:10 月
- 登録団体数 : 114 団体 (前年度実績 112 団体)

(5) 国際交流・国際協力活動を行う団体等に対する外部研修会への推薦

外部団体が行う 3 研修会それぞれについて、関係団体のメンバーを推薦した。

- 研修数 : 3 件(前年度実績 3 件)
- 推薦者数 : 3 人(前年度実績 4 人)

2 多様な主体との多角的なネットワークを構築する事業

(1) 市町村国際交流協会等ネットワーク事業

ア 市町村国際交流協会等ネットワーク会議

県内の市町村国際交流協会及び市町村国際交流担当職員が一同に介し、外国人材の受入れをテーマにした講演を聞き、情報・意見交換を行った。

- 日 時 : 7 月 17 日 (水) 13 : 30~15 : 45
- 場 所 : 郡山市中央公民館
- 参加者 : 市町村国際交流協会及び市町村国際交流担当課職員 23 団体 (27 人)
(前年度実績 18 団体 (20 人))
- 内 容 : 講演「外国人材の受入れに伴う地方自治体の役割と課題」
講師 : 佐野孝治氏 (福島大学経済経営学類教授)

イ 日本語教室ネットワーク会議

県内の日本語教室からの代表者が一同に介し、情報・意見交換等を行った。

- 日 時 : 10月19日(土) 13:00~16:00
- 場 所 : 当協会
- 参加者 : 18団体(27人) (前年度実績 21団体(30人))
- 内 容 : 講演「これからの地域日本語教室の役割」
講師: 山田泉氏 (にんじんランゲージ校長 元 法政大学教授)

(2) 市町村国際交流協会等への情報提供

- 回 数 : 7回(前年度実績 8回)
- 内 容 : (一財)自治体国際化協会助成金の案内、多言語防災アプリの紹介など

(3) 多様な主体が行う事業への出席等

ア フェスティバル等への出展

- 出展数 : 2件(前年度実績 4件)
- フェスティバル名 : 結・ゆい・フェスタ 2019(福島市国際交流協会主催) 他 計2件

イ 総会等への出席

- 出席事業数 : 15件(福島市国際交流協会総会[福島市]、2019年度1次隊青年海外協力隊派遣前訓練修了式(JICA二本松訓練所)[二本松市]ほか)(前年度実績 19件)

【基本方針及び目標】

基本方針3 グローバル社会で活躍できる人材を育成します。

次世代を担う若い世代や人材育成を行う指導者等を対象に、幅広い知識や能力を習得する機会を提供し、グローバル社会で活躍する国際性豊かな人材を育成します。

【数値目標】 県内のグローバル化を先導する人材の累積育成数

(単位:人)

項 目	平成31年度 目標	平成31年度 実績(達成率)
累積育成数	120	165(138%)

※ 【数値目標】は、当協会第5期運営基本計画（平成28年度～平成32年度）に基づく。

【事業実績】

1 次世代を担う人材を育成する事業

(1) 国際理解出張講座（グローバル人材編）

若い世代に対し、環境や貧困など世界規模の課題や、様々な価値観を持つ人々とのコミュニケーション、異文化適応等について学ぶ機会を提供するため、県内の学校等に出向いて参加型の講座を実施した。

○ 参加者：2,144人（前年度実績 1,484人）

○ 講座名と実施回数

	講座名	実施回数
A	Diversity in Canada～多文化の国 カナダ～	3
B	海外へ留学しましょう	0
C	地球の食卓	1
D	世界がもし100人の村だったら	6
E	食卓からのぞいてみよう イスラム文化	1
F	これってアリ？	5
G	貿易ゲーム	3
H	新しい惑星の旅	1
I	シータちゃんの日	1
J	魚獲りゲーム	2
K	その他（依頼団体の講座のねらいに応じて）	2

合計 25回（前年度実績 28回）

(2) ふくしまグローバルセミナー2019

福島県国際理解教育ネットワーク（構成団体：福島県、福島県教育委員会、JICA 二本松、当協会）の主催により、県民を対象として、異文化理解や国際協力、多文化共生等について考えるため、外国出身者による母国紹介や国際協力現場レポートなど幅広い内容の講座を実施した。

○ 日 時：11月23日（土）10：00～24日（日）11：50

○ 場 所：JICA 二本松（二本松市）

○ 参加者：高校生以上一般 119人（前年度実績 158人）

○ 全体講師：小野行雄氏（かながわ開発教育センター）

○ 内 容：全体会、昼食交流会、セッション（「国際緊急援助と誰でもできること～恩返し連鎖が世界を繋ぐ～」他 19 講座）、グロセミカフェ、自主セッション（「新たな世界へのトビラ～オーストラリアとパラグアイ留学生による発表～」他 6 講座

(3) 次世代の海外研修への助成事業

原則として 39 歳以下の大学生や社会人を対象として、国際社会に貢献し世界をリードする幅広い視野や国際感覚を持つグローバル人材を育成するため、非営利の国際交流団体等が主催する海外研修プログラムに参加する際の渡航経費の一部を助成した。

- 募集期間：4月25日～8月31日
- 応募件数：9件(前年度実績 10件)
- 助成件数：5件(総額 45万円) (前年度実績 6件(総額 69万円))

	氏名	所属	研修名	交付額 (万円)
1	千葉菜々絵	福島県立医科大学 放射線腫瘍学講座	平成 31 年度 6 年次 Advanced BSL に おけるアメリカでの放射線治療学実 習	10
2	児山洋平	福島県立医科大学 総合科学教育研究 センター	ベトナム南部における科学的根拠に 基づく患者中心の保健医療サービス 向上：大学と医師会の連携イニシア チブおよびシンガポールにおけるフ ィールドワーク	10
3	渡部穂乃花	福島大学経済経営 学類	海外フィールドワーク「若者の消費 行動からみるマレーシア」	10
4	吉田和樹	福島県立医科大学 大学院医学研究科	子どもの健やかな成長を目指した育 児支援の検討：スウェーデンの研究 者・育児支援者から学ぶ	10
5	木下瑠菜	福島県立医科大学 国際地域保健学講 座	継続的な国際免疫血液学教育	5

2 県内のグローバル化を先導する人材を育成する事業

(1) ふくしまグローバル人材育成指導者研修会

グローバル人材育成指導者のための指導者向けの研修会を基礎編と実践編の2回に分けて実施した。

- 日時及び場所：[基礎編]7月6日(土) 10:00～16:00 郡山市男女参画センター
[実践編]7月27日(土) 10:00～16:00 郡山市総合福祉センター
- 参加者： 教員等[基礎編]21人(前年度実績 30人) [実践編]20人(前年度実績 29人)

- 講師：井手将夫氏（東京都立多摩高等学校教員）

【基本方針及び目標】

基本方針 4 海外での風評の払拭に向けて、福島現状を正確に伝えます。

特に海外で根強い風評を払拭するため、あらゆる機会をとらえて正確な情報を継続して発信するとともに、海外からの視察等を積極的に受け入れます。

【数値目標】 風評払拭に向けた多言語による情報発信回数

(単位：回)

項目	平成 31 年度 目標	平成 31 年度 実績 (達成率)
情報発信回数	600	568 (94.7%)

※ 【数値目標】は、当協会第 5 期運営基本計画（平成 28 年度～平成 32 年度）に基づく。

【事業実績】

1 海外での風評払拭に向けて本県の現状を多言語で発信する事業

(1) 多言語による福島現状の発信事業

震災復興に向けた取組や県民の声などの本県の現状を、7 つの言語（日本語、英語、中国語、韓国語、タガログ語、ポルトガル語、ベトナム語）で WEB 発行し、広く世界に発信した。また、3 つの言語（日本語、英語、中国語）でニューズレター（紙媒体）を発行し、県内外の関係機関（者）に情報を発信した。

ア 多言語による情報発信《再掲》

国内外への本県の現状の正確な発信及び外国人住民の本県での暮らしのサポートのため、当協会ホームページやフェイスブック、ツイッターの 3 つの媒体を活用し、地域のイベント情報や身近な生活情報を提供した。

- 情報件数：122 件 (前年度実績 204 件)
- 多言語発信回数：568 回 (前年度実績 620 回)
- 言語別内訳 (件)

言語名	英語	中国語	タガログ語	韓国語	ポルトガル語	ベトナム語	合計
回数 (前年度実績)	133 (156)	102 (128)	84 (110)	85 (115)	83 (111)	81 (0)	568 (620)

イ 「Fukushima Now」 の発行

これまでの震災復興に向けた取組や本県に暮らす外国人住民の声などの本県の現状を掲載した拡大版のニューズレターを発行した。

- 発行月：8月、11月、2月
- 発行部数：日本語(1,000部)、中国語(1,000部)、英語(1,000部)
- 仕様：A4判両面フルカラー
- 内容：本県の風景写真、外国人住民からのコメント等
- 配付先：賛助会員、県内公共施設、市町村国際交流協会、民間団体等

2 海外からの視察に対応する事業

(1) 海外からの視察コーディネート事業

国内外の多様な主体が主催する海外からの本県の視察交流について、コーディネートを行うための情報収集を行った。

その他

(1) 関係機関への講師や委員等の派遣

関係機関が主催する各種会議に対し、委員等として当協会職員を派遣した。

- 件数：5件(前年度実績5件)

(2) 職場体験及びインターンシップの受け入れ

福島市内の中学校の職場体験及び山形県内の大学からのインターンシップを受け入れた。

- 件数：4件(8人)(前年度実績1件(1人))

(3) 「世界に伝えたい『私の福島』」フォトコンテスト入賞作品展

平成30年度に実施したフォトコンテスト入賞作品の巡回展示会を開催した。

- 回数：4回(前年度実績3回)

【基本方針及び目標】

基本方針5 財源の確保に努め、健全な運営基盤の確立を図ります。

当協会の運営の基本となる財源確保、効率的な予算執行及び業務運営の不断の見直し、職員の資質の向上等に努めます。

【事業実績】

1 財源

効率的な予算執行及び財源の確保に努めた結果、特定資産取崩額が当協会第5期運営基本計画の収支計画額以下となった。基金の運用については、安全性を重視しながら引き続き運用益の確保に努めた。

(1) 収支計画実績

(単位：万円)

	平成31年度実績 (a)	平成31年度計画額 (b)	差額 (a-b)
運用益収入	1,148	1,194	△46
事業収入等 ^{※1}	315	402	△87
県補助金等 ^{※2}	2,984	2,292	692
外部資金 ^{※3}	12	200	△188
収入合計 (A)	4,459	4,088	371
事業費	3,922	3,800	122
管理費	872	844	28
支出合計 (B)	4,794	4,644	150
収支 (A-B)	△335	△556	221
特定資産取崩	320	350	△30

※1 受取会費、受取寄附金、受取負担金、雑収益 ※2 県補助金、県受託金 ※3 民間助成金、民間受託金

(2) 寄附金

- 件数：2件（前年度実績 3件）
- 金額：1,020,000円（前年度実績 1,033,000円）

(3) 賛助会費

- 件数：個人会員 117人（うち新規 8人）、（前年度実績 126人（14人））
団体会員 67件（うち新規 1件）、（前年度実績 70件（3件））

○ 金額：1,134,000 円（前年度実績 1,126,000 円）